

稚内市教育研究会 ヘキ地複式部会 令和元年度の取組

稚内市のへき地複式六校で本部会を構成、相互に連携し、授業交流、集合学習、合同見学等行事運営等に取り組んでいる。

〔部会研究の視点〕

- ・「活動内容やゴールがわかるような課題設定」により意欲を持たせる。
- ・「見通しを丁寧に行う」ことで、解決場面で同じ方向をもって答えに向かわせる。
- ・解決できなくても「子どもどうしの交流での気づき」を促す。

今年度、11月に稚内市研究会公開授業研を富磯小学校、大岬小学校、宗谷小学校で開催。

【稚内市立富磯小学校】

1 学校規模 全校11名（1年2名、2年1名、3年3名、4年3名、6年2名）

2 研究主題 『いきいき学び、自分の良さを発揮できる子どもの育成』
～授業のユニバーサルデザインを通して、全員が「わかる・できる」
授業づくり～国語科に焦点化して

3 研究概要

（1）研究を進める視点

- ・児童が「わかる」と感じられる手立て ～特に個々の児童に応じた～
- ・見通しを持って取り組める課題や発問の設定 ～何をすべきかを明確に～
- ・読むことに慣れ親しむ環境づくり ～興味を持つ、習慣化する～

（2）研究仮説

- ①子どもの実態・変容を正確につかみ学びに寄り添うことで、効果的な授業のユニバーサル化が図られ、夢中で考えたり粘り強く解決に向かおうとしたりするであろう。
- ②読書活動の工夫を通して、読みへの抵抗感を減らしたり、楽しさを味わわせたりすることで、伝える力・関連づける力・広がる力がつくであろう。

（3）研究会公開授業

＜国語3・4年 複式授業＞

3年「モチモチの木」～物語のおもしろいところの紹介を文にまとめる。

4年「ごんぎつね」～最後の場面の、ごんと兵十の気持ちの移りかわりを考える。

（4）授業後の話し合い・アンケートから

- ・参観者が多く緊張していたようだが、子どもたちは落ち着き集中して頑張っていた。じっくりと考える時間が十分に保障されていたのも良かった。
- ・教師の指示がはっきりしていて、どちらの学年の子どもたちも何をすれば良いかよく理解し集中して取り組んでいた。
- ・4年生は、気持ちの変化を読み取るという活動やゴールが明確となる課題設定やまとめになっていた。3年生は、「紹介する準備をする」という課題がこの時間のゴールとやや合っていないように感じた。
- ・個々の子どもへの支援の様子から、ユニバーサル化を意識した取組が伝わった。焦点化や視覚化も指示発問や資料掲示で効果的に実践されている。
- ・意見の交流は活発に行っていたが、「話し合い」という面ではもっと工夫の必要があった。でも、そこが少人数活動での難しさでもあると感じる。



【稚内市立大岬小学校】

1 学校規模 全校33名（1年5名、2年11名、3年3名、4年6名、5年3名、6年5名）

2 研究主題 『授業内容をしっかり身につけることができる子供の育成』
～わかる授業づくり～

3 研究概要

（1）研究を進める視点

- ・課題を見つけ、解決に取り組む子、進んで取り組む子の育成をめざしている
- ・2年次計画の1年目である本年は、次の仮説に基づいた授業改善と、児童の定期的な読解実態の調査を行う。

（2）研究仮説

- ①課題やまとめを子供自身の言葉で表現させることによって、解決に向かう意欲や自信が付き、「わかる」「わかった」につながるだろう。
- ②わかりやすいノートの取り方を段階的に指導することによって、自分の思考を整理することができるようになるだろう。

（3）研究会公開授業

＜算数科 2年単式 3・4年複式＞

2 年：『かけ算九九づくり』～8の段の九九を構成することができる。

3・4年：『分数』～簡単な分数の減法計算を理解する。（3年）

『垂直、平行と四角形』平行四辺形の意味、性質を理解する。（4年）

（4）授業後の話し合い・アンケート・ご助言から

① 2年

- ・学びの足跡が残っていて、これまでの学習内容を生かすことができている。
- ・子どもたちのつぶやきをうまく拾い、課題設定につなげることができていた。

② 3・4年

- ・学び方や基礎技能等、子どもたちのレベルが高く、自分でできることが多かった。
- ・キーワードや用語を使って説明する力を育てることが今後の課題となる。

③ ご助言

- ・実物投影機で説明させるときに、相手意識を持たせたい。
- ・単元を見通し、時間ごとに何を身に付けるのか考えることが大変重要である。
- ・クエスチョン課題などに取り入れ。
- ・「できる→わかる」「わかる→できた」につながるので、練習問題にもっと取り組ませてよいと考える。



【稚内市立宗谷小学校】

1 学校規模 全校 23 名

(1年6名、2年1名、3年4名、4年3名、5年5名、6年5名)

2 研究主題

『学ぶ意欲をはぐくみ、すべての子どもが「わかる」「できる」ようになる指導』

～国語科授業のユニバーサルデザイン化を通して全員が楽しく参加する授業作り～

3 研究概要

(1) 研究目標

物語文・説明文・詩など、それぞれの読み方の基本（「論理」）を教師が具体的に観点を示しながら、授業をつくっていく。「論理的な話し方・聴き方」「論理的な書き方」「論理的な読み方」を指導し、主体的に学習に向かう姿勢を身につけさせていく。今年度は、主に、説明文教材を窓口にして、児童の変容を測っていく。

(2) 研究仮説

「読み方の基本」を身につけさせることで、主体的に学習に取り組む子どもが育つであろう。

(3) 研究内容

①どの子にとってもわかりやすい授業 (UD)

- ・授業を構造化する。
- ・授業を視覚化(ビジュアル)する。
- ・授業を焦点化(シンプル)する。
- ・授業で共有化(シェア)する。

②発問を絞り、全員が学習課題を把握して活動できる授業

③学んだことをしっかり振り返ることのできる授業

(3) 研究会公開授業・研究協議概略

【国語 1・2 年 複式授業】

1年「おはなしかいをしよう」(教材「うみへのながいたび」)

2年「しゃしんをつかって、せつめいしよう」(教材「さけが大きくなるまで」)

- ・ 1年生の音読が上手だった。子ども同士で読みの確認ができていた。
 - ・ ワークシートが分かりやすかった反面、書くのが大変そうだった。
 - ・ 2年生については、やることが明確だったため、課題を理解して進めていた。1人で学習を進め立派だったが、話し合い・深めるができない点が課題である。
 - ・ 振り返りの時間が確保されていた。「わ・か・め」の合言葉で振り返りがスムーズにできていた。
- 



【国語 5・6 年 複式授業】

5年「多様な情報を読み取り、自分の考えを深めよう」

(教材「世界遺産 白神山地からの提言—意見文を書こう」)

6年「筆者の考えを読み、感想を書こう」(教材「ぼくの世界、君の世界」)

- ・5・6年生は、個への支援がしっかりとできていた。(少人数学級の良さ)
- ・指示が的確だったので、見通しを持って授業に参加することができていた。
- ・教材の準備がしっかりとされていたので、子供たちが主体的に活動していたが、反面、準備が大変そうだなと思った。
- ・共有化の部分では、「感想を述べる」・「考えを発表する」にとどまっていたので、発表をもとに練り合い、深めていくことが今後の課題である。